授業科目名： 持続可能な開発のための教育（ESD）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：林 浩二 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	前 千葉県立中央博物館 生態･環境研究部 環境教育研究科 上席研究員。専門分野は、環境教育･植物生態学･博物館教育。国際的に関心を集める「持続可能な開発のための教育（ESD）」と「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて、博物館としての役割を、具体的な活動から探る。		
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特になし		

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21　世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（１）開発教育のはじまりと発展、開発教育と環境教育との関係、これらが合流してできたと見える持続可能な開発のための教育（ESD）」の発展について説明できるようになる。
（２）国連総会が採択した世界の 2030 年までの目標；持続可能な開発目標（SDGs）について、その先行である、2000 年ころ～2015 年のミレニアム開発目標（MDGs）との違いを踏まえて説明できるようになる。
（３）ESD が取り上げる問題が環境、貧困や開発、人権、平和、ジェンダーなどの諸問題と複雑に関わり合っていることについて例を挙げて説明できるようになる。
（４）地域の問題・課題等を分析し対策を考える際に、SDGs をツールとして使えるようになる。
（５）自らの家族の生活が世界とどのようにつながっているか、衣・食・住それぞれの点で調べて見る。住では、生活上の消耗品やエネルギー、ゴミの行方などにも注意すること。
（６）身近な地域で国際協力・環境保全等の活動をしている団体の存在の有無を調査し、もしあるならその具体的な活動内容・方法を ESD の観点で調べてみる。
（７）身近な自治体（区市町村や都道府県）で行われている施策のうち、ESD と直接に関わる事項

を調べ、その問題点を挙げることができるようになる。その際には、単純に賛成・反対などと自分の立場を示すだけではなく、複数の立場・観点があることを踏まえて説明できるようにすること。
（８）現代の子ども・若者が置かれている状況を踏まえ、その「居場所」の重要性について説明できるようになる。
（９）新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の流行・気候変動（地球温暖化）など世界の緊急な問題・課題への対応と持続可能な開発のための教育(ESD)との関係を説明できるようになる。
（１０）人類が地球環境に大きな影響を与えた認識のもと、新たな地質年代として提案されている「人新世（じんしんせい）」について、持続可能な開発のための教育（ESD）との関連を説明できるようになる。
（１１）持続可能な開発のための教育（ESD）が、現代の日本・世界においてなぜ必要なのか、誰にとって必要なのか、具体的に説明できるようになる。

授業の概要

「持続可能な開発のための教育（ESD）」は、はなはだ分かりにくい概念で、十数年を経ても国内では学校や社会になかなか浸透してこなかった。一方、2015 年に国連総会が採択した、世界が 2030 年までに達成すべき目標としての「持続可能な開発目標（SDGs）」は短時間の間に社会の中に浸透しつつあるように見受けられる。また、ESD と類似ないし同一視される「内発的発展」の成果と見ることのできる地域の取り組み事例を国内外で見つけることができる。

ESD は、従来（狭義）の環境教育に、開発（貧困）、人権、平和、ジェンダー、地球市民等々のテーマが加わった学習活動とも見なされている。本科目においては、ESD の「持続可能」や「開発」という語を自明の概念と扱うのではなく、どういう歴史的背景を持って登場し、世界における受け止められ方がどのように変化したのかにも注意を払う。開発教育は「自分と世界のつながりを発見し、関係のあり方を問うなかで、グローバルな視野を獲得し、地球社会に生きる市民としての権利と義務を果たす」（テキスト p.19））をめざす活動である。本科目は、この開発教育のめざすところが、持続可能な開発のための教育（ESD）の視点とほぼ重なるという立場をとる。そのために、テキストとしては開発教育を中心にした『SDGs と開発教育』を選んだ。

どんな国のどんな地域に住んでいたとしても、大気や海洋、資源、食料などで他の地域・他国と全く関係しない生活など、ほぼあり得ないのが現代社会である。関係はすぐにグローバルな範囲に拡大する。

貧困の問題に対しては世界的な取り組みが長年行われてきており、一定の成果は挙がっているものの、いわゆる先進国と途上国との間の経済的格差は縮まるどころか開くばかりであり、さらに、先進国の中、あるいは途上国の中でも、それぞれ格差が広がりつつある。これは現実の国、社会や経済の構造が、この状態を維持・拡大することにつながっているためだとも見られている。

国内にも目を向けてみよう。日本はいわゆる「先進国」の一つと見なされている。しかし「貧困」や「飢餓」を途上国にしかない問題と軽視してはならない。現実に日本でも貧困や飢餓の事例はいくらでも存在するし、所得の格差は拡大し続け、ジェンダーの問題も家庭や学校、職場で起きて、制度や意識の改革が追いついていない。若者の中には居場所を失い、社会に参画できていない例も少なくない。

これらすべてが、他の問題も含めて、ESD が取り上げることのできる課題・問題である。取り組みは、家庭・地域・自治体から国、さらには国際的な組織にまで広がる。

人類はその出現以来、環境を利用・改変しつつ地球上に広がっていった。近代の人類の活動が引き起こしている気候変動やプラスチックの利用、20 世紀以降の核開発で作られた放射性物質など、

「現代」は地球の歴史に期を画した時代として認識されるようになりつつあり、新たな地質年代として「人新世（じんしんせい）」が提案されている。現代社会の持続不可能性をこのように地球の歴史の中に位置づけて考えることはESDの重要な要素になりうる。

現代の社会が複雑に、またグローバルにも関わっていることから当然に想像できるように、一つの問題は単独に存在するのではなく、他の課題・問題と複雑に絡み合って、対応・解決を難しくしている。ある問題への対策について単純に賛成・反対の立場を示すだけでは議論は深まらない。その理由を自分で説明できることが必要であり、問題や対策には様々な立場・見解がありうることを踏まえて説明できることが望まれる。テキストや他の書籍・資料を読み、メディアから知ることに加えて、身近な地域で具体的な事例を自ら調べることで体験・体感することを試みたい。

現代の日本・世界において、持続可能な開発のための教育ないし持続可能な社会のための教育がなぜ必要なのか、誰に必要なのかという最終的な問いへのこたえを、具体的な事例から学び、地域を自ら調べるなどの取り組みを通じて考えていく。

授業計画

第１回：序論・開発教育の歴史と課題
第２回：開発教育の内容・方法・カリキュラム
第３回：地域における開発教育の展開
第４回：MDGsからSDGsへ
第５回：さまざまな開発論
第６回：環境問題とESD
第７回：国際協力
第８回：貧困と格差
第９回：持続可能な生産と消費
第１０回：紛争と平和
第１１回：災害と開発
第１２回：子どもと若者
第１３回：ジェンダー
第１４回：人の移動・移民
第１５回：これからの世界と私たち・まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容

＊スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる。

講義とアクティビティ体験・話し合いを組み合わせて、ESDやSDGsについての理解を深める。

その際、アクティブラーニングの手法も用いて実施する。

現在、世界が直面している新型コロナウイルス感染症をめぐる諸問題についても可能な範囲で話題にとりあげることで、 ESDやSDGsが現代社会にすむ私たちにとって意味があることを理解する。

教科書

田中治彦・三宅隆史・湯本浩之 編著（2016）『SDGsと開発教育 持続可能な開発目標のための学び』　学文社　ISBN 978-4-7620-2649-2

参考文献

（１）『SDGs（持続可能な開発目標）』（中公新書）

蟹江憲史 著　中央公論新社　（2020 年８月刊）　ISBN 9784121026040 （２）『SDGs ―危機の時代の羅針盤』（岩波新書） 南 博・稲葉雅紀 著　岩波書店　（2020 年 11 月刊）　ISBN 9784004318545 （３）『人新世の科学』（岩波新書） オズワルド・シュミッツ 著・日浦 勉 訳　岩波書店　（2022 年 3 月刊） ISBN　9784004319221 （４）『人新世』 平 朝彦　東海大学出版部（2022 年 3 月刊）　ISBN 9784486022008
学生に対する評価 　スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。